（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら 熊谷教室			
○保護者評価実施期間	2025年　12月　1日	～	2026年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	36
○従業者評価実施期間	2025年　12月　20日	～	2026年　1月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	13	（回答者数）	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や利用児童からの高い満足度維持。	職員や利用児童の強みを考慮したプログラム実施と振り返り。LINEworksを利用し、定例会議や申し送り、当日の様子などを共有。送迎時に保護者様に対面で様子をお伝えできるようにしている。	急な申し入れの際にも現場のリーダーが指示を出し迅速に決定できるような体制作りや職員育成。
2	可視化された空間。	指示に対する理解度を向上させるために、スケジュールや絵カード、掲示物などを広く用いている。	利用児童1人ひとりの効果的な支援について、関わり方や支援方法など足並みを揃えていく必要がある。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有。	職員個々に意識の差があり、全体把握や情報に対する理解度に差が生じている。 LINEworksだけでは十分に周知する事が難しい。	全体ミーティングや定例会議、個別面談等を増やし、職員1人ひとりが意見することができたり、互いの考えに向き合う機会を増やしていく。
2	保護者同士の交流会の開催。	毎年、保護者同士の交流に関して賛否の声が挙がり、実現が困難な状況。	送迎時の聞き取りやアンケートによる調査も可能な一方、交流会開催には賛成の保護者と否定的な保護者の双方への慎重な対応が必要。
3			